

Topics

仙谷由人官房副長官と廣江研理事長の動きに注目 子育て支援の現場と東京・板橋区の介護事業の新モデル

○…8月9日、超党派の国会議員有志による医療政策の勉強会「健康政策研究会」の設立総会が都内で開かれた。社会保障制度など幅広いテーマで議論していく予定だが、会長には仙谷由人民主党代表代行・官房副長官が就いた。「社会保障は超党派で論ずべき。政争の具にしてはならない。与野党が思いを同じにして事にあたれば難問も突破できる」というのが仙谷氏の持論。この会には仙谷氏をはじめ古川元久前官房副長官、鈴木寛文科副大臣、大串博志、梅村聡、山尾志桜里議員（以上民主党）、鴨下一郎、田村憲久、加藤勝信、西村康稔、丸山珠代、尾辻秀久議員（以上自民党）らが名を連ねた。来春の診療・介護報酬の同時改定に向けて大きな力を発揮しそうだ。



仙谷由人官房副長官

○…その仙谷氏、研究会設立の3日前の6日（土）午前11時過ぎ、東京・北区東十条のJR京浜東北線駅沿いに今春4月開所したばかりの社会福祉法人こうほうえん（廣江研理事長）の認可保育園「キッズタウン東十条」（定員90人）を訪ねた。内閣府の役人を伴ったもので、表向きは「エコで省エネの進んでいる福祉施設の視察」だったが、仙谷氏らしい遠謀深慮が秘められているようであった。約1時間の滞在だったが、JR東日本と提携してできた同保育園、障害をもった子どものための児童デイサービスには関心を示したらしい。こういう現場情報を仕入れて、「健康政策研究会」

などで子育て支援策や医療・福祉政策に反映していくのが仙谷氏の特技だ。9月には新しい政権が発足する。仙谷氏はそのキーマンでもある。寸暇をみつけて動き回る仙谷氏。その先に鳥取を本拠にする（社福）こうほうえんの東京事業展開に目を向けるどころなど、さすがだと思わせた。

○…そのこうほうえん、今月はじめ東京都住宅供給公社が全国公募した板橋区向原の「コーシャハイム向原」「向原住宅」50戸の運営事業と「向原地域包括ケアシステム」構築、「向原地区におけるサービス付き高齢者向け賃貸住宅整備事業」の事業者選ばれた。賃貸住宅50戸のオペレーションとともに周辺エリアに複数の高齢者支援施設や地域交流施設、保育所、在宅支援クリニックを13年4月までに完成させる。コンビニ、アルツハイマーカフェ、買い物御用ききなど生活支援サービスメニューはかつてこの世界にはないものだ。それはヘルスケア業界の全く新しい事業モデルとあっていい。鳥取こうほうえんの東京事業展開はこれからの医療・福祉事業の将来を先取りしている。「新しいことは困難が多いし、採算性も考えなければならないが、1700人の職員が支えてくれているのでがんばっていきたい」と意気盛んだ。仙谷氏の動き、廣江氏の事業展開のスピードを見ていると、医療界のこれからのイメージが浮かんでくる。



廣江研理事長